

## 令和3年上尾市教育委員会第2回臨時会 会議録

- 1 日 時** 令和3年3月4日（木曜日）  
開会 午後6時00分  
閉会 午後7時28分
- 2 場 所** 上尾市役所 7階教育委員室
- 3 出席委員** 教育長 池野和己  
教育長職務代理者 細野宏道  
委員 中野住衣  
委員 大塚崇行  
委員 内田みどり  
委員 小池智司
- 4 出席職員** 教育総務部長 小林克哉  
学校教育部長 瀧沢葉子  
学校教育部参事 兼 学校教育部次長 関孝夫  
教育総務部次長 清水千絵  
学校教育部副参事 兼 学務課長 太田光登  
学校教育部副参事 兼 指導課長 兼 教育センター所長 田中栄次郎  
教育総務部 教育総務課長 池田直隆  
教育総務部 生涯学習課長 小宮山克巳  
教育総務部 図書館長 島田栄一  
教育総務部 スポーツ振興課長 柳川忠明  
学校教育部 学校保健課長 荒井正美  
学校教育部 中学校給食共同調理場所長 戸國健一  
書記 教育総務課主幹 利根川直秀  
教育総務課副主幹 上山英樹  
教育総務課主査 田中輝夫  
教育総務課主任 中里ひろみ
- 5 傍聴人** 7人

## 6 日程及び審議結果

### 日程第1 開会の宣告

### 日程第2 会議録署名委員の指名

### 日程第3 協議

- 協議1 第3期上尾市教育振興基本計画（案）について
- 協議2 第5次上尾市生涯学習振興基本計画（案）について
- 協議3 第2期上尾市スポーツ推進計画（案）について
- 協議4 第3次上尾市図書館サービス計画（案）について
- 協議5 第3次上尾市子どもの読書活動推進計画（案）について

### 日程第4 報告事項

- 報告事項1 上尾市立中学校生徒の体調不良者の発生について

### 日程第5 閉会の宣告

## 7 会議録

### 日程第1 開会の宣告

(池野和己 教育長) ただ今から、令和3年上尾市教育委員会第2回臨時会を開会いたします。本日、傍聴の申出はございますか。

(池田直隆 教育総務課長) 7名の方から傍聴の申出がございます。教育長の許可をお願いいたします。

(池野和己 教育長) 傍聴を許可いたします。ご案内をお願いいたします。

～傍聴人入場～

(池野和己 教育長) それでは、日程に従いまして、会議を進めます。

### 日程第2 会議録署名委員の指名

(池野和己 教育長) 「日程第2 本臨時会の会議録署名委員の指名を行います。会議録署名委員は、大塚委員をお願いいたします。

(大塚崇行 委員) はい。

### 日程第3 協議

(池野和己 教育長) それでは続きまして「日程第3 協議」を行います。まず、「協議1 第3期上尾市教育振興基本計画(案)について」説明をお願いします。

(小林克哉 教育総務部長) 「協議1」につきましては、池田教育総務課長より説明いたします。

#### ○協議1 第3期上尾市教育振興基本計画(案)について

(池田直隆 教育総務課長) 「協議1 第3期上尾市教育振興基本計画(案)について」でございます。お手元に冊子のご用意をお願いいたします。令和2年上尾市教育委員会12月定例会におきまして、原案を提案し、ご協議いただきましたが、市民コメントもいただきまして、今回最終的な案として提案するものでございます。

まず、2月定例会で報告いたしました市民コメントとしていただきました意見の主なものを改めて説明いたしますと、この計画の位置づけの確認、幼児教育の充実の具体化、社会教育における多世代交流の具体化などが挙げられています。いただきました意見につきましては、本計画が教育振興のための施策を総合的かつ計画的に推進するために定める計画であることから、主なものを掲載することとし、具体的な取組につきましては、年度ごとに行う事務の点検評価などを行いながら、取組や事業のスクラップアンドビルドを行うことしております。

次に、12月定例会の協議後、市民コメント制度で公表した内容から変更した点をご説明いたします。まず、冊子冒頭の教育委員会あいさつの次に、市長のあいさつを掲載する予定でございます。次に29ページの「主な取組2 魅力ある学校づくりの推進」の中の①の文章の中で研究委嘱を市立幼稚園に行う旨の記載がありましたが、実際には平方幼稚園には個別の委嘱という形ではなく交付金の交付により研究の推進を支援していく予定であることから、誤解を招く表現であったため、委嘱先と

して市立幼稚園の表記を削りました。また、巻末に参考資料として、本計画の設置規程及び策定経過を記載してございます。用語解説につきましては、文章の中で意味の理解も含めて分かりやすく表記していることから、割愛しております。

なお、現時点から状況により変更する予定があるところについてでございますが、現在、市議会に上尾市幼児教育推進協議会の設置を提案しているところでございます。この提案に対する議決によっては、目標Ⅶの施策3に記載している幼児教育振興協議会の名称に変更が生じる可能性がございます。また、「上尾の摘田・畑作用具」につきましても、現在の「国登録有形民俗文化財」の状況から変更が生じた場合には、改める可能性がございます。説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

(池野和己 教育長) 協議1につきまして、説明いただきました。委員の皆様には、これまでの会議でもご意見をいただいているところですが、パブコメをいただいた上で、今回再度ここで協議をお願いしております。新たな点でも結構ですので意見等ございましたらお願いしたいと思います。質疑、意見はございますか。

(中野住衣 委員) 幼児教育について、30ページの現状(課題)の②の中に、幼稚園、保育所、保育園、それから認定こども園などから、小学校への学びが円滑に接続されるよう、幼・保・小の更なる連携・交流が必要ですよとの記載があります。この連携・交流をこれからさらに進める中で、ここをスタート地点として、幼稚園、保育所、保育園、そして認定こども園はそれぞれ、その教育や保育の内容について、教育委員会が直接指導する公立幼稚園はなくなります。

(池野和己 教育長) まだ、公立幼稚園はなくなりはしません。

(中野住衣 委員) 今年度に募集停止となり、本計画期間中に今後休園等になった場合でも、教育委員会が指導していくような役割を今後も担っていく必要があると考えておりますので、それぞれの担当課やこれから作る組織などの中で、連携について、それぞれの実態把握から始めていただき、連携・交流をよりよい形で進めていただければありがたいと考えています。

(大塚崇行 委員) 説明いただいた内容の確認ですが、68ページの主な取組1の①の中で「幼児教育振興協議会」とありますが、この会議の名称が「幼児教育推進協議会」に改めることになる可能性があるということですね。

(池田直隆 教育総務課長) その通りでございます。

(大塚崇行 委員) 計画86ページの第3章の内容に対する市民コメントの中で、各企業との連携というところを書いてあり、コメントの中でも連携を強化する方向性に賛同しますということが書いてありますが、上尾商工会議所が行っている事業として、連携というところでは職場体験というのをしております。そのようなところで市行政との連携を取っておりますので、今後益々活かしていただきたいと思っております。また、やはりそのような地元企業の連携というところで、その根本のところ、計画の7ページの(5)地域コミュニティの希薄化の中で、度重なる災害の災害時の対応としては、行政だけでは賅い切れない状況が多く見受けられ、平時より災害時の地域における助け合いの必要性など、人と人とのつながり、重要性が高まっているということがありますので、災害に対する地元企業との繋がりや付き合いなどをぜひ強化していただきたいと思います。それに関連して、このたび上

尾商工会議所では、事業継続力強化支援計画に関わる認定の申請を県知事行いました。この計画は自然災害の発生時の対策やその事前対応について、また今般のコロナウイルス対応のような部分も含まれております。そういった防災などの部分でも、教育の現場と地元とに根差している企業との連携をぜひ行っていただきたいというように考えておりますので、意見として加えさせていただきます。

**（細野宏道 教育長職務代理者）**今協議を行っている上尾市教育振興基本計画は、教育に係る上尾市の最上位計画であると理解しております。計画の55ページには、ESD等でSDGsとの関連を図るという記載がありますが、ここにしかない状況です。現行の第2期計画は、2016年から計画期間となっており、SDGsは2015年9月に国連サミットで採択をされておりますけれども、その中でも、目標4のところに教育が謳われて大変重要視をされているというように考えております。その中でもESDという言葉はもちろん入っていますが、最上位計画である上尾市教育振興基本計画の中で、55ページだけ記載されていて、現在の社会情勢や計画の位置付け等の中に、上尾市としてはやっぱりSDGsを考えながら、いわゆる包括的かつ公正な質の高い教育を確保するという目標をやはり謳うべきではないのかなというように思っています。従って、55ページだけではなくて、例えば総論の中などで、やはり謳っていただければというふうに思います。

ちなみに、後程の協議になりますけれども、スポーツ振興基本計画の中には謳ってあります。この計画で謳っていて、その上位計画である教育振興基本計画にはないというのやはり少しまずいというように思いますので、本来であれば12月の協議の時に話すべきでしたが、ぜひ検討をお願いしたいと思います。

**（池田直隆 教育総務課長）**国や地方公共団体が策定する各種計画等において、SDGsの要素を最大限に反映することを推奨しております。本来であれば案の中で、提案すべき部分でございますが、今回改めて理解をいたしましたので、この後の3月定例会の中で、また最終的に策定の判断をいただくこととなりますが、それまでの間で修正をさせていただいて、改めて提案させていただきたいと思います。

**（小池智司 委員）**計画60ページの学校環境の整備・充実の施策の現状（課題）の中で、窓ガラスや照明など非構造部材の耐震対策を進めるとありますが、この内容に対する市民コメントの中でもありましたように、学校施設は避難場所となる場合もあると思いますが、いざという時に電力がシャットダウンしてしまうと何もできなくなってしまうと思います。以前の説明の中で、耐震性能の問題などで太陽光設備を付けることが難しいというように聞いていますが、学校施設更新計画等の事業をこれから進めていく中で、今後のことはわからないところもありますが、エネルギーとしての太陽光などを含めて電源をどのように確保していくのかということを考えていただければと思います。計画の中ではその記載がありませんが、今後の5年間の中で、そのことについてはどのように進めていくのでしょうか。

**（池田直隆 教育総務課長）**太陽光発電を現状の校舎の屋上などにつけることについて検討したところ、費用対効果がほぼないという部分もあり、現状は対応していない状況でございます。しかし、今後学校更新を進めていく時期になりますので、環境政策担当課とも調整しながら、そのようなことを含めて、学校更新計画の中で、地域住民の話を伺いながら進めていくこととなります。計画の記載については検討させていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

(池野和己 教育長) 他にはよろしいでしょうか。

～委員全員から「はい」の声～

(池野和己 教育長) 続いての協議に移ります。協議2 第5次上尾市生涯学習振興基本計画(案)について、説明をお願いします。

(小林克哉 教育総務部長) 「協議2」につきましては、小宮山生涯学習課長より説明いたします。

#### ○協議2 第5次上尾市生涯学習振興基本計画(案)について

(小宮山克己 生涯学習課長) 「協議2 第5次上尾市生涯学習振興基本計画(案)について」でございます。別冊の協議資料をご覧ください。教育委員会12月定例会にてご説明し、委員の皆様にご協議を頂いておりますが、社会教育委員会議からのご意見を受け、2点ほど内容の追加をいたしました。

まず1点目ですが、新型コロナウイルスの蔓延により大きく社会状況が変化する中、飛躍的にリモート会議が普及したことについて説明を加えるものです。14ページの下から9行目をご覧ください。

『しかし、「新しい生活様式」が余儀なくされ、企業などでリモート会議が開催されるなか、Society 5.0社会では情報収集や学習において以前ほど「地理的な地域」に縛られることなく遠方の人と人がつながれることを実感した人が多かったのも事実です。』の記述を追加いたしました。

2点目として、38ページ上から二つ目の○、ICT環境を活用した国際交流(新)『上尾市は平成6年から、オーストラリアのロッキヤーバレー市と「上尾市中学生海外派遣研修事業」をきっかけに交流を続け、平成26年7月に友好関係協定書を締結しました。しかし、令和元年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、両市の交流は中止となりました。現在、市教育委員会では、ロッキヤーバレー市との間で、学校同士のオンライン交流に向けた準備を進めています。今後、ICT環境を活用した新たな国際交流のあり方も検討していきます。』の記述を追加しました。これ以外につきましては、大きな変更点はございませんが、一部語句を訂正し、体裁を整えたものとなっております。今後につきましては、3月定例会にてご承認いただきたいと考えております。説明は以上です。よろしくをお願いします。

(池野和己 教育長) 協議2につきまして、説明いただきました。2か所について、社会教育委員の方からのご意見をいただいて、12月から訂正になっておりますので、その辺も含めまして、また新たな内容でも結構ですのでご意見等ありましたらお願いしたいと思います。

(大塚崇行 委員) 14ページの追加された部分について、人と人がつながる、特に遠方の人とつながることを実感したということもありますので、早急に公民館等と無線LANの整備を進めるべきだと思いますので、よろしく願いいたします。

(池野和己 教育長) ただいま、公民館等のオンライン環境の整備を進めるべきというご意見をいただきました。検討していきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

(細野宏道 教育長職務代理者) まず1点目は大塚委員と同様の意見になりますが、現在のコロナ禍の状況で「with コロナ」という言葉を耳にします。今後の教育や生涯教育においては、「with ICT」だと思います。ICTは教育にはぜひ必要なものであると思いますし、説明にも出てきた口

ツキヤバレー市との間でのオンラインの交流等も含めて、すべてがICTにあると思います。そのためには、ハードの整備はもちろんのこと、それを使うための環境が必ず必要になりますので、ぜひそれを謳っていただければと思います。

2点目ですけど先ほども申し上げましたけれども、37ページの「上尾の未来へつなぐ」の中の5行目に、「誰もが生涯にわたって学び続け」という文言がありますが、これはまさしく、SDGsの目標4のターゲットの生涯教育の機会を促進するという文言とほぼ一致をしています。このため、SDGsについては、この生涯学習振興基本計画の中でも、記載すべきだというように思いますのでぜひ検討をよろしく願いをします。

**(内田みどり 委員)** 23ページの放課後子供教室について、現在は大石公民館と原市公民館において行っているということですが、それ以外の公民館について放課後子供教室の広がりが期待できるのかどうかについて伺います。

**(小宮山克巳 生涯学習課長)** 現在の2か所の公民館で実施しておりますのは、小学校に隣接しているという条件のもとで、子供の安全な居場所づくりに貢献しながら、子供たちを地域で様々な体験学習するということに取り組んでおります。学校と家庭と地域が連携していくことが大きな課題と考えておりますので、いかに学校の放課後に子供達を安全にその会場となる公民館に誘導していただけるのかを研究しながら、今後どのように展開していくか検討していきたいと思っております。

**(内田みどり 委員)** この事業にはとても期待していますのでよろしくお願いします。

**(中野住衣 委員)** 生涯学習振興基本計画を読んで、そもそも生涯学習とは何かと考えました。1ページの「(1)策定に当たって」にも説明がありますが、この生涯学習を目指すためには、学校教育においても、子供達に生きる力を育むとともに、学んだ成果を公共の視点に立って、広く社会に活かすという力をつけていかなければいけないということを改めて感じました。これまでコロナ禍の中で、様々な子供達が大変な経験をしましたけども、これから激動の時間を生き抜く中で、自分で考えて他人と共同して課題解決をしていくという力を育てていくためには、やはり、家庭や地域が大事であり、学校だけではなくてその家庭と地域との連携の中で、そういう力を子供の時代から育てていくことが大事だと思います。そのようなところから、小学生や中学生を対象にした事業等も増やしていただければありがたいというように思います。

また、22ページの「人の地域の絆を作る」というところに、郷土理解の中で、この「郷土愛」ということを考えると、自分と他人との関わりや自分と物との関わりなどを子供達が経験しながら、子供の時代から醸成されるものだと思いますので、家庭・地域・学校で、そういう力を醸成していきながら、将来の生涯学習につなげていかなければならないと、生涯学習を改めて考え直していかなければと考えましたので、お話をさせていただきました。よろしくお願いします。

**(池野和己 教育長)** 他にはよろしいでしょうか。

～委員全員から「はい」の声～

**(池野和己 教育長)** 続いての協議に移ります。協議3 第2期上尾市スポーツ推進計画(案)について、説明をお願いします。

(小林克哉 教育総務部長) 「協議3」につきましては、柳川スポーツ振興課長より説明いたします。

### ○協議3 第2期上尾市スポーツ推進計画(案)について

(柳川忠明 スポーツ振興課長) 「協議3 第2期上尾市スポーツ推進計画(案)について」でございます。別冊の資料をご覧ください。教育委員会12月定例会にて、委員の皆様にご協議いただいております。また、市民コメントの意見がなかったことから特に変更点はございませんが、一部語句を訂正して体裁を整えております。なお、51ページ以降のスポーツ推進審議会委員名簿、本計画策定の経過などのほか、アンケート調査を実施した際に、市民の皆様から頂いたご意見を参考資料として追加掲載いたしました。説明は以上でございます。

(池野和己 教育長) 協議3につきまして、説明いただきました。12月定例会後の大きな変更は特にないということですが、参考資料が今回添付してありますので、それも含めまして、ご意見質問等ありましたらお願いいたします。

(内田みどり 委員) 11ページの健康寿命の推移の中のグラフの縦軸の単位が「歳」になっていますが、これは年齢を表す「歳」で正しいのか、65歳に対して加える「年」というほうがよいと思いませんがいかがでしょうか。

(柳川忠明 スポーツ振興課長) 後ほど確認させていただきます。

(小池智司 委員) 協議1から3まで共通していますが、9ページの人口のグラフや表で、令和27年の推計人数が、20万4,959人となっておりますが、先ほどの別の計画では20万265人になっているように、人数が異なっている部分がありますので、それぞれの計画の中の人口がなぜ違うのかということについて疑問に思います。

(柳川忠明 スポーツ振興課長) 各課のデータの出典が異なっていることが考えられますので、改めて各課と調整して、統一できるように、訂正したいと思います。

(池野和己 教育長) 人口の人数が異なっている人口の人数につきましては、もう一度確認をして、同じ市の中で出すものですので、統一すべきものは統一をするような変更をお願いしたいと思います。

(中野住衣 委員) 冒頭の計画策定の趣旨の中で、スポーツの意義や意味合いなどが書かれていますが、このコロナ禍の中で新たに進めた取組もあれば、例えば様々な事業や大会などが中止になったこともあると思います。運動ができない状況で、高齢者の方がおうちにて、問題を抱えていた方もいらっしゃると思います。そこで、スポーツと生活について考えたときに、コロナ禍で実践してきたことなどについてこの計画で触れているのかなという視点で読みましたが、無かったように思いましたので質問します。

(柳川忠明 スポーツ振興課長) この1年間で、自粛期間中などは特に屋外でスポーツをする機会がなくなりまして、ホームページ等には自宅でできるエクササイズや運動をホームページに掲載してきましたが、この計画の本文の中には記載してございませんので、その部分については改めて見直してい



きます。

(中野住衣 委員) 他の計画では入っていますので、少し検討いただければと思います。

(大塚崇行 委員) 前回の時にも話しましたが、小中学生の体力が低下しているという数字として表れていますので、コロナ禍の影響がどれだけ、またどのように出てくるかというところが問題なところでもあります。そのような中で、46ページの数値目標のIVのところ、新体力テストの総合評価が「A」「B」「C」である児童生徒の割合を、2025年には小学生では85%、中学生では90%以上にするという高い目標を掲げています。特に中学生の場合は、2014年度が86.1%であったものが2019年度には85.8に下がっている状況の中で、それを90%以上にするという大変高い目標数値を掲げていると思っていますので、これをやるにはやはり大変な努力が必要ではないかなと思いましたので、意見としてお話をさせていただきました。

(柳川忠明 スポーツ振興課長) おっしゃる通り高い目標数値であると思いますが、学校の体育とは別に、地域のスポーツ推進員やスポーツ協会の関連団体などが、子供達の体力低下を防ぐ、また向上させていくためにいろいろな施策を考えて実施しているところがございますので、目標は達成できるかどうかわかりませんが、実現に向けて取り組んで参りたいと思います。

(大塚崇行 委員) ぜひ取り組んでいただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

(池野和己 教育長) 他にはよろしいでしょうか。

~委員全員から「はい」の声~

(池野和己 教育長) 続いての協議に移ります。協議4 第3次上尾市図書館サービス計画(案)について、説明をお願いします。

(小林克哉 教育総務部長) 「協議4」につきましては、島田図書館長より説明いたします。

#### ○協議4 第3次上尾市図書館サービス計画(案)について

(島田栄一 図書館長) 「協議4 第3次上尾市図書館サービス計画(案)について」でございます。2月定例会で、市民コメント制度に基づく意見募集の結果について、報告させていただきましたが、その後、2月22日に図書館協議会を開催し、この内容について協議をいただきましたので、その結果と対応をご報告いたします。

協議4別紙1をご覧ください。市民コメント制度に係る意見書に対する「市の考え方(回答)」の修正をしております。No.5及びNo.8は、新図書館計画や第2次図書館サービス計画の検証についてですが、協議会からもう少し整理が必要であるという意見をいただき、経緯など本文を修正しました。No.6の指定管理者制度の導入についてですが、平成28年度に図書館協議会から「上尾市図書館における指定管理者制度の導入について」の答申をいただいた経緯があることを追加しました。No.19から41までの5項目は、図書館司書等の配置の考え方ですが、市民の皆様から疑義が生じないよう修正を加えました。

協議4別紙2をご覧ください。市民意見を受け、本文に修正を加えた内容でございます。修正箇所

は13項目で、別紙2の該当箇所ページ欄と修正内容は、修正後の欄となります。本文には、修正箇所に下線を加え、文字を強調しております。例えば、2項目については、別紙1のNo.5及びNo.8でも説明した新図書館計画や第2次図書館サービス計画の検証についてですが、本文1ページで修正しております。1の2本計画策定のページの中で触れてございますが、経緯を少し膨らませて修正を行っております。その他、協議別紙2の通り修正を行うということで考えてございます。説明は以上でございます。

(池野和己 教育長) 協議4につきまして、説明いただきました。特に別紙1及び別紙2について説明いただきましたが、ご意見、また質問等ありましたらお願いしたいと思います。

(大塚崇行 委員) 先ほどの公民館についてと同様ですが、計画5ページでインターネットを活用したデータベースの利用提供等とありますが、無線LANが全図書館で未整備の状況となっておりますので、図書館にも、分館を含めて無線LANの整備を是非ともお願いしたいと思います。

続いて、市民コメントの中で、項目としては、ナンバー1と7ページ目のナンバー51の2つのところでは、今後の計画の中の上平施設について意見が出されています。前回の会議の時の学校施設更新計画等々でも、今後の公共建設物の新規整備は抑制する方向であるというようなところも書いておりました。財政的にも大変厳しい状況というところである中で、上平地区複合施設検討委員会で基本構想の検討が進められておりますということが書いてありますが、どのように検討が進められているのかということについて伺います。

(島田栄一 図書館長) 上平地区複合施設の検討の状況でございますが、平成30年6月に、新図書館建設計画の見直しを行いまして、畠山市長が図書館分館機能を含む複合施設を建設する旨の表明を行いました。現状は、市長部局で上平複合施設の整備に向けた検討委員会を進めておりまして、今年度に基本構想の更新を受けるというような状況で準備を進めている状況でございます。先日の最後の会議がありましたが、この更新に向けては、様々なご意見をいただいている状況であると認識しております。今後は当初予算を計上しておりますので、市議会でのご検討をいただくこととなります。

(大塚崇行 委員) 敷地の近くに上平公民館もありますので、どのような機能が必要なのかと思うところはありますが、検討するというのであれば、進めていただければと思います。

最後に3点目として、図書館の今後の設備の整備や老朽化のことを考えますと、なかなか上尾市の中だけで考えることは大変難しいのかなと正直思うところです。ただ、少し目線を広くして市外に向けると、例えば、神奈川県川崎市では、横浜市、町田市、稲城市、狛江市などの図書館がお互い連携して、市民がお互いの市外の図書館でも借りられることをしています。埼玉県でも、そのように隣接している市の図書館との連携についても進めていただければと思います。

(島田栄一 図書館長) 近隣市町でお互い借りられる制度は上尾市にもございまして、近隣のさいたま市、伊奈町、蓮田市、桶川市で、市民が他市町の利用者カードを作っていただくことができるような状況でございます。そのほかにも、上尾市図書館と県内全ての図書館とのネットワークを持っておりますので、市図書館に所蔵のない資料を他の館から借りたり、逆に貸したり、そのような利用の仕方も制度として行っているところでございます。

(中野住衣 委員) 計画7ページの「3.4.新しい生活様式と展望」の中で、コロナ禍の中での取組で、

将来の展望についての記載もあり、コロナ禍の中で今後こういうことが必要であるということがたくさん書いてありますが、現状として今年度新たに取組を進めたことについて伺います。

**（島田栄一 図書館長）** 基本的なコロナ禍の対策は当然のこととして、新たにハイブリットな図書館を目指して、電子書籍の導入を目指して予算計上を行っている状況でございます。その他、コロナ禍だからこそできるお話会として、例えば、それまでは館内で行っていたものを屋外で行うということを実施しましたので、このような工夫をしながらソフトの事業も行っていきたいと考えております。10年を見据えた5年間の計画になりますので、ハード及びソフトを含めまして、抽象的に盛り込んだ内容を、毎年度の実施計画の中で具体的に進めていきたいと考えています。

**（中野住衣 委員）** それについてですが、今年はコロナ禍にあって、例えば上尾市PTA連合会の研修会の講演や発表もQRコードで接続して視聴したり、公民館で中止になった事業についても、あげTubeにその内容が録画されていて、参加出来なかった人達も視聴できたりするなど、様々な取組がありました。様々な事業の様子を見てみると、これがこれからの新しい時代の展望になっていくのだなということをととても感じました。今も工夫された点を聞かせていただきましたが、コロナ禍にあって外出を控えている方達は地域に沢山いると思います。その辺のことも含めて、そういう人たちへのアプローチが様々なあると思いますのでよろしくをお願いします。

もう1点は、17ページに職員体制のことが書いてありまして、この市民コメントの中にも沢山の意見があったと思います。私の学生時代に図書館に通っていた時のことを考えますと、レポート提出のときなどには、県立図書館などによく行きました。そこでは十分な資料があるということと、そこにいる職員の方と関わることで、自分の求めている知識をいただいたことがたくさんありました。図書館は知の宝庫と言われるますが、図書館の建物とそこにある本や資料、そして図書館で働く人たちのその三要素が大きいというふうに思います。特にレファレンスサービスについて記載がありましたが、様々な知識が欲しくて来る人達に、豊富な知識を持って、本と人とを仲介して、仲立ちをして繋げてくれることは非常に意義のある業務であると思います。職員の資質向上など色々記載されていますが、上尾市の図書館や分館が市民にとってより良い場になるように考えていただければありがたいと、自分の学生時代を思い出して、そのように考えました。よろしくをお願いします。

**（内田みどり 委員）** 今、サブスクリプションなどの普及もあって、ネットで本を読める時代になってきていて、本離れが進み、だんだん若者が本を読まなくなってきたと思います。そこに対して、本を手に取りやすい、近くにあるということが一番大切なのかなという気がします。駅前分館がありますが、実際に行ってみると、どこにあるかわかりづらいと感じたことがあります。もう少し分館の場所への案内アピールや市民へのメッセージのようなものが必要と感じました。ぜひ、若者が本を手に取りやすい場所にある図書館であって欲しいと思います。

**（島田栄一 図書館長）** 若者の読書離れについてご意見をいただきましたが、まさしく図書館や本の業界では、若者の読書離れの進行が懸念されています。上尾市図書館としても対策を打っていきたいと考えております。それに関連するものを計画に盛り込んでおりますが、ICTの活用が今求められていますので、まずは電子書籍というのも一つの手段だと考えております。それを突破口にブックトークやビブリオバトルなどの事業について、上尾市でまだできてないものもありますので、実践に向けていきたいと考えております。

(小池智司 委員) 今までの意見と重複する部分もありますが、6ページの「3. 2. 施設の現状と課題」の記載の中に、「本館は」というところから始まって「面積が小さく、現状では居心地の良い空間づくりなどに要する拡張性はほとんどなく、開架資料も所蔵資料の半数以下にとどまっています」とあります。今の図書館施設の中で、蔵書を全て閲覧できるような形というのはなかなか難しいとは思いますが、やはり本は手に取って見て、中を確認しながら借りるという形が一番オーソドックスなスタイルだと思います。その実施が困難な部分については、先程館長の説明にありました電子書籍を活用などをぜひ進めていただいて、利用者が求める内容が容易に理解しやすいシステムを考えていただければありがたいと思います。

もう一点伺いたいこととして、レフェラルサービスというところで、この計画に「専門的な機関・団体又は個人の紹介を行うレファラルサービス」、「市の公的専門機関、専門家等との連携強化を図る」と書かれています。このような記載があるということは、そのような専門家や公共機関と連携を図るということは、ある程度の範囲で検討が進んでいるということでしょうか。

(島田栄一 図書館長) その部分は、上尾市として弱かった部分でございますので、そのことを明確に計画上位位置付けて、この5年間の中で、例えば医療機関との連携や情報提供ができるシステムづくりをしていきたいと考えております。図書館と利用者とを結びつけるのはやはり人でございますので、レファレンスサービスを行う仲介役が弱い部分でもありますので、その窓口を作るなど様々な検討をしていきたいと思っております。その中でまたさらに一歩先としてレファレンスサービスからレフェラルサービスへの展開も考えていきたいということでございます。

(小池智司 委員) これからその辺を進めていくということで、まだ今のところ具体的にどのように行っていくという段階ではないということですね。

(島田栄一 図書館長) これから具体的に検討してまいります。

(細野宏道 教育長職務代理者) 「協議4\_別紙1」の資料で、新図書館の経緯を書くべきという図書館協議会からの指摘があり、この本文1ページに黒字で記載していただきました。私もここはやはり書くべきだなと思っておりましたので、記載をしていただいてありがとうございました。

続きまして5ページについて、小池委員からも質問がありましたレファレンスサービスの件です。先日、桶川市の図書館に行った際に、レファレンスサービスがあるのかなと思いながら見ていました。職員の方には直接伺いませんでしたが、やはりそこをあまり強化していないように感じました。この強化されていない傾向にあるということは、上尾市だけの問題ではないのでしょうか。それをお伺いします。

(島田栄一 図書館長) 詳細な統計やご質問の比較できる数値は手元にありません。しかし、例えばさいたま市の図書館などでは、職員やスタッフとして利用者を案内できる方がいて、その方を中心に本と人とを繋げるような役割を持って案内をしたり、様々な情報提供をしたりしているという現状がございます。上尾市にはそれが無いという現状があります。

基本的には、レファレンスサービスは様々な情報提供をしており、本を案内するののも一つの役割ですが、それだけではなく、例えば「平方」という地名の由来は何かなどの、利用者が知りたいと思っている情報をその職員やスタッフを通じて展開していきたいと考えています。

(細野宏道 教育長職務代理者) 先程中野委員も発言されておりましたが、今から30年前などの時代には、上尾市の図書館に行ってそこに探しているものが無いと、県立図書館に行って更にそこで紹介されて国会図書館に行ったという経験があります。現在はインターネットが普及していますので、図書館に行って何かを調べるというのも一手法ですが、例えば「平方」というキーワードを入れて、平方の歴史を調べるといったことが、個人で出来る時代になっています。これまでのレファレンスサービスとは違うものを皆さんは求めているのだと思います。従って、レファレンスの利用が減少傾向にあるというのはそういう要因があるのだと思います。そこで、上尾市に莫大な費用をかけてレファレンスの職員を配置することが、果たしてサービスの向上に繋がるのかどうかということを考えるべきだと思います。人がいれば、確かに上尾市はこういうサービスをやっていて素晴らしいなと感じる人がいるかもしれませんが、それは本当のサービスには繋がらないような気がします。果たして本当にレファレンスサービスが必要なのか。また、レファレンスサービスよりもレファラルサービスの方が重要だとも思います。インターネットで一個人やユーザーが獲得できないような情報を、レファラルサービスで提供していく必要があるのではないかと思います。そのためには相当高度な技能を持つ人材が必要になってくると思いますので、これは一朝一夕では出来ないと思います。機関や専門家との連携が構築できておらずということで、課題としては記載があります。先程、小池委員が発言をされておりましたけれども、上尾市の図書館サービスの基幹計画として、上尾市としてはこのレフェラルサービスについて記載したうえで、こういうことをやっていくという記載のほうがユーザーにより伝わるのかなと思いますので、是非精査をして記載をしていただければと思います。

(島田栄一 図書館長) レフェラルサービスが展開できるようにしていきたいと思います。その前に、ご指摘いただきましたインターネット環境が整ってきた一方で、レファレンスサービスが減少しているということに関してですが、それも要因の一つと思われます。ただ、情報ネットワークやその使い方がわからない方もいらっしゃいます。今回新たに市民コメントにもありましたが、そのような状況もあり、情報リテラシーの獲得という言葉もあえて加えております。情報の活用方法を、市の図書館としても利用者にも上手く伝えていく必要があり、相乗効果も見ながら利用者の満足度を向上させていくことも大事であると思いますので、それについてもこの計画の中で進めていきたいと思います。

(細野宏道 教育長職務代理者) 確かに情報を得る方法は個人によって異なりますので、全ての方法に対応するのは大変だと思いますが、是非よろしくお願ひしたいと思います。それからもう1点、7ページ一番上に、「上尾駅前分館をはじめとし、現在では全館民間委託しており」という文言がありますが、民間委託して民間の活力を利用していくというのは、上尾市に限らず、日本全体でそういう流れになっていると思います。先程のようなことを考えた時に、民間委託をするメリットはあると思いますが、図書館としてはなかなか難しいかもしれませんが、デメリットとして考えられることについてお伺いします。

(島田栄一 図書館長) メリットとしてよく言われることとして、民間委託は経費の削減というようなことがあります。民間委託の中には、指定管理委託という方法もございます。デメリットとしては、今まで積み上げてきたノウハウや経験が次につながらなくなってしまうというような懸念というのが考えられます。

(細野宏道 教育長職務代理者) 上尾市図書館サービス計画では、アンケート調査を行い、私達も拝見しました。このアンケートの取り方もいろいろある中で、この意見の方は、こういうアンケートをや

った方がいいのではないかとことや、無作為抽出の方法についてなどについて図書館協議会から異論が出るのではないかと市民コメントの意見の中で指摘されていますけれども、実際、図書館協議会の方からアンケートに対して意見をいただいているのかお伺いします。

(島田栄一 図書館長) 申し訳ございませんが、手元に資料がございませんので後ほどお伝えいたします。図書館協議会にも、この3,000人を対象とした市民アンケートの実施や結果の報告をさせていただいています。無作為抽出とした目的は、利用されていない方の意識調査ということを考えました。図書館としても、公立の図書館ですので、多くの市民の方に利用していただけるよう、利用されていない方の意見を伺う必要があると考えたところです。また、利用者の方のアンケートについても別途定期的にやっていきたいというのは、この計画の中で位置づけているところです。

(細野宏道 教育長職務代理者) 私も、上尾市の図書館は公立ですので、全ての方にアンケートを取って、利用している方や利用していない方も含めて意見を伺って、それを反映させるということはやはり必要だと思います。これに対して図書館協議会から意見が出たのかということで質問をさせていただきました。

(中野住衣 委員) 12ページの「基本方針Ⅱ 多様なニーズに対応するサービスの提供」の最初にレファレンスサービスというのがあって、「レファレンスサービスを今後の図書館の中心的なサービスと位置づけ」と書いてあります。意見としては、情報を様々な部分で活用して、インターネットからも情報を得て、学びに繋げていくという時代になってきましたけども、図書館としてはやはりこのように考えているということですね。

(島田栄一 図書館長) インターネットも使いながら、図書や本との繋がりを引き続きやっていきたいというのが基本的な考え方だと思います。

(中野住衣 委員) 学校教育も、やはり1人1台端末の時代になってきて、これから変わっていくと思いますが、やはりそこには教科書があって、先生がいて、知識のある人が、本やものを結びつけていくという学習というのも、今後、逆に大切になってくる部分もあるのではないかと思う部分がありますので発言させていただきました。

(池野和己 教育長) 他にはよろしいでしょうか。

～委員全員から「はい」の声～

(池野和己 教育長) 続いての協議に移ります。協議5 第3次上尾市子どもの読書活動推進計画(案)について、説明をお願いします。

(小林克哉 教育総務部長) 「協議5」につきましては、島田図書館長より説明いたします。

#### ○協議5 第3次上尾市子どもの読書活動推進計画(案)について

(島田栄一 図書館長) 「協議5 第3次上尾市子どもの読書活動推進計画(案)について」でございます。協議5別紙1、2については、先に説明した図書館サービス計画と同様の考え方となります。

まず、別紙1をご覧ください。No.12の関係機関の実施状況と課題について、修正後のとおり、考え方を追加しました。No.14は、少し具体的に表現を修正してあります。続きまして、別紙2をご覧ください。意見の反映状況ですが、市民意見を受け、本文に修正を加えた内容がございます。修正箇所は11項目で、別紙2の該当箇所ページ欄で、修正内容は修正後の欄となります。例えば、2項目目、「こども」の表記の使い分けについては、注釈をつけたほか、5項目目については、条文の規定を引用し明記するなどしましたが、「同条9の2」と表記したのは、正しくは、「同法9条第2項」の間違いでした。いずれも本文1ページで修正しております。説明は以上でございます。

(池野和己 教育長) 協議5につきまして、説明いただきましたが、質疑、意見はございますか。

(中野住衣 委員) 内容を見させていただいたときに、最初のところに、子どもの読書活動の支援体制という図があって、その後内容にも細かく説明がありますが、先程内田委員さんからもお話があったように、中学生等青少年の本離れ、読書離れの話題があった時に、この支援体制の図や内容を見ても、やはり中学生の取組が若干少ないのかなと感じます。それについてはいかがでしょうか。

(島田栄一 図書館長) 子どもの読書支援計画の対象年齢が18歳までにしてございますが、高校生等の青少年の読書離れというのは、先ほども申し上げましたが不得意な分野でございます。上尾市では、小学校までを対象とした事業では自負できるような活動をしてきているのですが、今後、中学生や高校生も含めた学校との連携を積極的にやっていきたいと考えています。この計画の中で、進めてまいります。

(中野住衣 委員) いくつかその取組はあるのですが、ぜひそういうことで進めていただければと思います。

(内田みどり 委員) 私事ですが、子供が2人おりまして、読み聞かせを10歳ぐらいまではしていきたいと考えていました。その当時の思い出を子供は今でも話してくれます。この計画の中では、家庭での読み聞かせを小学生というふうに区切っていますが、小学6年生ぐらいまでは、読み聞かせをした方がよいという図書館からの方針みたいなものはありますでしょうか。10歳ぐらいになると、親は一生懸命読み聞かせしたくても、なかなか子供が聞きたがらないといったことがあるかと思いません。

(島田栄一 図書館長) 読み聞かせは、朝の読書も含めまして、中学生まで行っているところもあると聞いております。中学生までは読み聞かせの効果があるというふうに思っています。また、去年はコロナ禍の中で、大人への読み聞かせを行いました。私どももその効果について半信半疑で見えていたところですが、大人の方が読み聞かせを聞いて涙を流している方もいて、その様子を見て私も感動したところです。子供たちだけではなくて、大人も読み聞かせを聞きながら、様々な想像力を働かせ、本から学んでいただくなどの効果があるのではと認識した状況です。

(内田みどり 委員) また子供と話をしてみたいと思います。

(池野和己 教育長) 他にはよろしいでしょうか。

## 日程第4 報告事項

(池野和己 教育長) 続きまして、「日程第4 報告事項」でございます。本日は、1件の報告がございます。よろしくお願いいたします。

(瀧沢葉子 学校教育部長) 「報告事項1」につきましては、荒井学校保健課長より説明いたします。

### ○報告事項1 上尾市立中学校生徒の体調不良者の発生について

(荒井正美 学校保健課長) 報告事項の1ページをお願いいたします。「報告事項1 上尾市立中学校生徒の体調不良者の発生について」でございます。初めに、今回体調を崩された生徒や保護者の皆様には大変辛い思いや御心配をおかけし、申し訳ございませんでした。また、教育委員の皆様や市民の皆様にも御心配をおかけし、重ねてお詫び申し上げます。既に報道発表にもありましたように、市内中学校において、2月18日に体調不良者が多数発生した案件につきまして、保健所が学校給食を原因とする食中毒事件として断定しましたので、報告いたします。報告事項2ページからをご覧ください。

項目1 発生時からの経緯でございます。教育委員会が学校から最初の通報を受けた事案の覚知日は、2月18日木曜日でございます。この日の午前、市内の2校の中学校におきまして、腹痛・下痢を理由として欠席・早退をするほか、登校していても同様の症状を訴える生徒や教職員が多数発生しているとの報告が、教育委員会にございました。症状は軽症とのことでしたが、多数の体調不良者が発生していたため、当該2校は短縮授業の措置を講じ、19日、22日の2日間の給食提供を念のため全中学校で中止することいたしました。

事案の発生に伴い、教育委員会から鴻巣保健所へ連絡を行い、鴻巣保健所が中学校給食共同調理場や当該中学校に対し、施設調査や患者調査を開始いたしました。これらの調査は、24日水曜日まで実施され、中学校給食共同調理場や中学校給食室では、衛生管理や調理工程の確認、喫食状況の調査、保存食の検査、調理従事者や有症者についての検便検査を実施しております。なお、この検便検査は、有症者全員の検査でなく、サンプル的に行っております。このような検査を段階的に実施してまいりました。この結果、最終的に、小中学校の給食で使う食材料そのものはもちろんのこと、実際に調理した食材を2週間、冷凍保存している調理後の保存食や実際に作った食材からは、食中毒原因菌は不検出で、菌は確認されないという結果となりました。一方、有症者の複数の糞便からは、ウエルシュ菌という食中毒菌が検出されました。なお、調理施設や調理工程、調理員の衛生管理の状況などについては、良好に管理されているとの指摘を受けました。項目1の表の上から5番目の欄2月22日月曜日の記載部分ですが、当初事案が発生した2校とは別の3校においても同一の献立の給食を喫食していたことから、保健所が、アンケート方式の追加の疫学調査を行い、新たな体調不良者を特定いたしました。そして、この時点では、鴻巣保健所の調査、原因解明には時間が必要とのことで、給食停止をさらに26日金曜日まで延長いたしました。2月25日木曜日に、冒頭申し上げましたとおり、鴻巣保健所が、本事案について本市の中学校給食を原因とする食中毒であると断定し、埼玉県が同日公表しております。

項目を一つ飛ばしまして、3ページの項目3には、この保健所の見解をお示ししております。有症者の発生状況や食中毒と断定した理由は記載のとおりでございます。なお、鴻巣保健所からは、同日付けで、資料の項目3の四角枠の下の※印にありますように、上尾市長に対し、施設の消毒等の実施について通知を行っております。2ページの項目1の表の下から2番目の欄をご覧ください。2月2



6日金曜日の対応です。この日に、鴻巣保健所から通知がありました衛生教育や給食施設の消毒等を行い、併せて中学校給食共同調理場職員と調理業務委託事業者の調理員が今後の献立や調理工程の見直しを行いました。そして、保健所が、立ち入り検査を実施し、施設の清掃や消毒がされていることを確認しております。これらの対応を踏まえ、生徒の健康状況が回復しており、衛生管理をより一層徹底することで、学校給食の安全が確保できると判断し、鴻巣保健所にも確認をいただきながら、給食を再開することとし、3月1日より、全校の給食を再開したものでございます。資料の項目2は、食中毒の原因となったと断定された2月17日の給食のメニューと写真を掲載しております。

上尾市の中学校給食では、セントラル・サテライト方式と呼ぶ、全国でも珍しい独自の運営体制を採っております。中学校給食共同調理場は、東西の中学校全11校分の給食を作っていますが、主菜（焼き物、揚げ物、煮物）や主食（米飯）のみ調理し、配送しています。そして各中学校には、小規模の調理室があり、そこでは、副菜や汁物等を調理し、中学校給食共同調理場で作られた料理と合わせて提供しています。なお、献立については、JR高崎線を挟み、東西のエリアで献立が相違しており、それぞれの東西のエリア内では統一献立となっております。それぞれの料理がつけられた調理室や配送状況は、記載のとおりでございます。

3ページの項目4の再発防止策です。中学校給食共同調理場では、安全に中学校給食が提供できるよう、鴻巣保健所から通知がございました資料記載の4点の防止策を講じ、引き続き、徹底を図っているところでございます。

項目5 生徒への対応でございます。給食再開に向けて、また、給食再開後、給食の喫食に不安のある生徒には、学級担任や養護教諭、管理職も含め丁寧に話を聞き、組織的に対応するとともに、必要に応じスクールソーシャルワーカーを派遣できるよう体制を整えております。実際に、給食再開日に、5校の生徒の様子を確認いたしました。不安で食べられないとか、弁当を持参した生徒は、おかげ様で1人もおらず、この部分につきましては、とりあえず安心をしたところでございます。

資料に基づく、御報告は以上でございますが、当該校の保護者の皆様に対しましては、事案発生時や給食提供の停止時、延長時、そして食中毒として断定された時点でそれぞれ配信メール等により、周知を行ってきたところでございます。最後になりますが、学校保健課、中学校給食共同調理場といたしましては、今回の件を大変重く受け止めております。二度とあってはいけない事案であると、関係する職員がしっかりと念頭に置きながら、保健所とも連携を図り、更なる検証や食中毒の再発防止策等の再点検を行い、安心・安全で美味しい給食が提供できるよう、引き続き努めてまいりたいと考えます。報告は以上でございます。

（瀧沢葉子 学校教育部長）報告は以上でございます。よろしくお願いたします。

（池野和己 教育長）ありがとうございました。ただ今の報告事項につきまして、ご質問、ご意見等ありましたら、お願いたします。

（内田みどり 委員）中学3年生の公立の受験が25日だったと思いますが、そちらの影響等はございましたでしょうか。

（荒井正美 学校保健課長）公立の入試につきましては、埼玉県の方で体調不良者が受験できないということが、実際としてあった場合は、特別の配慮をしていただけないということで、事前に連絡は来ておりましたが、影響を受けた生徒は、結果的になかったということでございます。

(池野和己 教育長) 他にはよろしいでしょうか。

～委員全員から「はい」の声～

(池野和己 教育長) ありがとうございました。報告についての質問、ご意見は以上で終了とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

#### **日程第4 閉会の宣告**

(池野和己 教育長) 以上で本日予定されておりました日程は全て終了いたしました。これをもちまして、上尾市教育委員会第2回臨時会を閉会いたします。お疲れ様でした。

令和3年4月22日 署名委員 大塚 崇行

※QRコードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。